



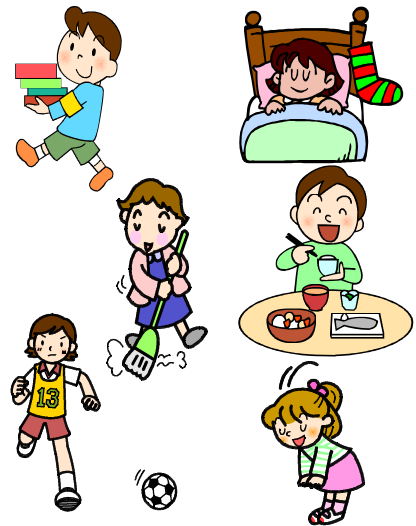
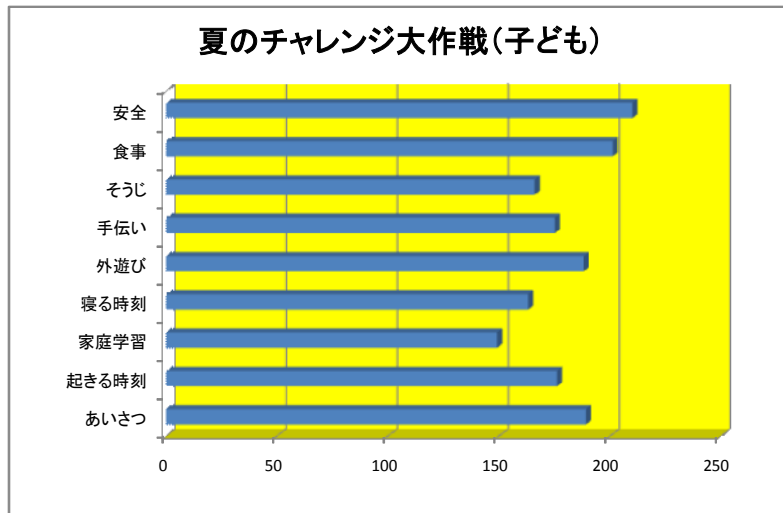
# 迫水の風

迫水小学校 校長室便り  
平成22年9月29日 NO. 116

## 生活力改善～伸びて、縮んで～

28日(火)の全校集会、校長講話のテーマは「毎日がチャレンジ大作戦～生活力を身につけよう～」である。

春休みや夏休みなど、長期休業中にチャレンジ大作戦のカードの各項目に児童、保護者の評価(休みの前半・後半の2回)を記入し、それらを集計して表彰する取組も7回目の取組となった。一人一人の変化を看取することもできるが、データを集計してみると、迫水小全体の児童・保護者の生活状況や傾向をつかむことができる。



上記の評価は、保護者もほぼ同じで、よくできた項目は「安全」「食事」「あいさつ」「外遊び」などで、反対に改善しなければならないのは「家庭学習」「そうじ」「寝る時刻」の3つのである。こういった自分たちの状況に気づかせ、秋休みや冬休みはもちろん、普段からこういった基本的な生活習慣をきちんとすることが学力、体力などにも必要な生きていく力と訴えた。白鵬がよく食べ、よく磨き健康に気をつけてきたこと。イチロー選手が生活リズムを守るなど、小さな積み重ねを大切にすることがとてつもないことを達成する唯一の道であることなどを紹介した。氷山の海面に出ている部分はおよそ8分の1であることも紹介しながら、見えない部分が大切であることを奨学生にわかりやすく話したつもりだったが、いかがだっただろうか。

その後の井野先生の生徒指導のお話も心に響く話だった。ゴムを取り出し、「今のみんなの様子はこうかな？」と伸ばしたり、縮んだり・・・運動会で精一杯力を出し切った達成感や脱力感がまだ残っている児童もいて、何人かが「うんうん、今ダラーッとしている」とうなずきながら聞いていた。金銭や物品等に関するやりとりがなぜいけないかについて、その理由を真剣に聞いていた子どもたち。一人一人の心のゴムが適度にピンと伸びていく様子が感じ取られた時間だった。



学力も体力も、まず基本的な生活力、いわゆる「生きる力」の土台となる場所、根っことなる部分がしっかりしなければ砂上の楼閣となる。ただゴムのたとえ話のように、子どもの成長は伸びたり縮んだり直線ではなく、紆余曲折の山あり谷ありである。そこを見極めながら、生活力を伸ばすためのグッドタイミングを逃さないよう指導したいものである。